

岡山畜産便り

2025 4



令和6年度 公益財団法人中国四国酪農大学校第59期生卒業記念

も く じ

〔酪大だより〕

- 第59期生が卒業しました
(公財)中国四国酪農大学校…………… 1

〔トピック〕

- 令和6年度広島県・島根県・鳥取県・岡山県に
おける畜産女性の意見交換会を開催しました
(一社)岡山県畜産協会 経営支援部…………… 2

〔県民局だより〕

- 「プロと創ってミルク」
～真庭高校とのコラボ商品開発～
美作県民局畜産第二班 金谷 治真…………… 4

〔技術のページ〕

- 過去最高の肉量「桃岡光27」号の新規選抜
農林水産総合センター畜産研究所…………… 6

〔家保のページ〕

- 知ろう、防ごう、ランピースキン病
岡山家畜保健衛生所 家畜保健衛生課…………… 8

〔家畜衛生情報〕

- 牛伝染性リンパ腫の対策に取り組みましょう！
(一社)岡山県畜産協会 家畜衛生部…………… 10

〔新規事業〕

- 新しい畜産関係資金のお知らせ…………… 12

〔センムのヒトリゴト〕

- 賛 否 両 論
(一社)岡山県畜産協会 中塚 陽二郎…………… 13

〔人事関係〕

- 岡山県畜産関係者名簿…………… 14
岡山県農業共済組合…………… 16
全農岡山県本部畜産部…………… 17
おかやま酪農業協同組合…………… 18
一般社団法人岡山県畜産協会…………… 19
岡山県畜産関係各種協議会…………… 20

動物用 カルシウム剤 ダービー

ダービーは貝化石の
微粉末であり貝化石には
カルシウムや各種ミネラルが
豊富に含まれています。
カルシウムの供給源として
搾乳牛や子牛にも
最適です。



JYUCHIKU Co., Ltd. 株式会社ジュウチク

〒701-1521 岡山県岡山市北区日近 726
Tel.086-295-9230 Fax.086-295-9240
Email : jyuchiku-info@po.oninet.ne.jp

健康な仔牛づくりへの
一歩目はこれから！



弊社では、四十年余り培ってきた醗酵技術を用
いることで、乳酸菌やその他の菌類を使用した良
質な醗酵飼料を、肉用・乳用を問わず、全ての
ステージの牛に対して提供しております。

また、弊社ではこれらの技術を利用したオーダー
品の設計や生産、飼料米の粉碎などの原料の
加工も承っております。

原料を持込での加工依頼や、御要望の数量の
多寡を問わず、まずはお気軽に御相談下さい。

醗酵飼料のパイオニア

フタバ飼料株式会社

〒709-0841 岡山県岡山市東区瀬戸町万富1057-1

TEL 086-953-0832 FAX 086-953-1870

E-mail : futabashiryu.co.jp

〔酪大だより〕

第59期生が卒業しました

公益財団法人 中国四国酪農大学校

暖冬だった昨年とは異なり、厳寒の日々が続き積雪も多かった蒜山にも春が近づき、第59期生21名（男子11名、女子10名）が酪農大学校を卒業しました。

本校では、『経営感覚と確かな技術を持った人材の育成』『酪農を通じて地域に貢献できる人材の育成』『社会人としての基礎力を備えた人材の育成』という教育理念のもと、実践的な知識と技術を身につけた人材育成を行い、これまでに1500余名の卒業生を輩出してきました。

なごり雪がちらつく中、今年も卒業生、在校生、教職員に加え保護者の方や多くの来賓の皆様にも参列していただき、無事卒業生を見送ることができました。



卒業式の様子

59期生は自分の考えを大切にする学生が多く、子牛市場での肥育素牛出荷や人工授精、機械操作、セミナー参加など目指す分野や興味あることに積極的に取り組んでいました。また、自らの意思を貫き、納得いくまで考え抜いた上で行動するという意志の強さも併せ持っていたように思います。こういった自分の信念を強く持ち行動できるということを大切にしつつ、これからは社会人として、周りとの円滑にコミュニケー

ションを取りながら柔軟に対応する力も養い社会に貢献してほしいと願っています。



機械練習の様子

2年という短い間ではありましたが、さまざまな経験をし、59期生は社会へと巣立っていきました。卒業式の答辞では「この2年間は学びと挑戦の連続で、多角的な視点を持って知識を深め、実際の現場に即した技術と判断力を養いました。必ずしも思い通りにいかない現実直面することもありましたが、そうした経験こそが、私たちをより強くし、未来へと進む糧となると信じています。」と語ってくれたとおり、何物にも代えがたい財産を手にした彼らの姿は非常に誇らしげで頼もしく感じました。4月からは、新しい土地・慣れない環境での生活が待っていますが、同じ志を持った仲間たちと励まし合いながら、かつてない苦境に立たされている畜産業界を生き抜いて欲しいと願っています。

就農・就職状況は、酪農後継者が2名、雇用就農が12名（うち酪農場7名、肉用牛農場4名、農業1名）、関係団体就職が3名、実習助手が1名、その他が3名となっています。このうち7名が岡山県内で就業しており、今後の活躍を期待しています。

〔トピック〕

令和6年度広島県・島根県・鳥取県・岡山県における 畜産女性の意見交換会を開催しました

一般社団法人 岡山県畜産協会 経営支援部

令和7年3月7日（金）、岡山県総社市の国民宿舎サンロード吉備路にて、「令和6年度広島県・島根県・鳥取県・岡山県における畜産女性の意見交換会」を開催しました。

この交流会は、畜産業に携わる女性たちが県の枠を超えて交流し、情報を共有しながら経営の発展を目指すことを目的としており、コロナ禍を除き平成21年度から毎年開催されています。

ちなみに、開始当初は島根県との2県でしたが、翌年度鳥取県が加わり、令和2年度に女性の会を設立した広島県が令和5年度から参加したことで、現在4県となりました。

畜産業における女性の役割は年々広がっており、経営の中心を担う方や地域とのつながりを大切にしながら新たな取り組みを進める方もいます。こうした背景のもと、他県の事例を学び合うことは、日々の経営にとって大きな刺激となると言えます。



開会挨拶する柴田畜産協会会長

当日は、岡山県から「おかやまフォーベルネット」、広島県から「ひろしま畜産女性の会」、島根県から「しまね畜産女性ネットワーク」及び和牛生産者、鳥取県からは「大山乳業農業協同組合酪農女性部」及び「鳥取西部和牛改良組合」の会員が参加し、各県の事務局担当者を含め43名が集まりました。会場には、初めて顔を合わせる参加者も多くいましたが、同じ畜産業に携わる者同士、すぐに打ち解け、活発な意見交換が行われました。

まず、各県女性部の活動報告が行われました。



女性部活動を紹介する様子

時間の制約や移動の負担を考慮しリモート会議を活用している例や、会費を徴収せずに助成金や行政との連携で活動をしている例が紹介され、参加者からは、「こうした工夫があると参加しやすい」との声が聞かれました。また、機関誌を発行し、消費者に向けた情報発信を続けており、さらに子供向けの絵本を作成し、学校で食育活動を行っている取り組みも紹介され、実際

に参加した子供たちからは「牛乳をいっぱい飲むようにしたい、子牛のお世話をしてみたい」といった感想が寄せられたとのことで、畜産の大切さを伝える大きな役割を果たしていることがわかりました。こうした事例に対し、「ぜひ自分の地域でも取り入れたい」と前向きな意見が多く聞かれました。



おokayamaフォーベルネットの
活動報告を行った小原代表

その後の意見交換会では、「参加者の近況報告」「私の牧場の自慢できるところ」「女性部紹介発表を聞いて参考にしようと思ったこと」の3つをテーマに、4グループに分かれて話し合いが行われました。



グループ別意見交換会の様子

各グループの代表1名から、意見交換の内容を発表してもらったところ、「近況報告」では、それぞれの地域の現状や課題が共有されたなか、「今の厳しい状況でも十分黒字経営でやっている」と発言された方

の話が紹介され、多くの方が自分たちも頑張らなければと感じた様子でした。また、何より体が資本、健康第一との発表には、会場中がうなずく姿が見られました。

「私の牧場の自慢できるところ」では、消費者との直接交流を大切にした取り組みや、自家配合飼料の工夫などが紹介され、中には、「特にないですけど、主人がしんどい顔をしないでよく働いてくれるところ」といったプチ自慢があり、他の参加者から感嘆の声が上がりました。また、「6次化を学びたいという方が、我が家の牧場を見学に来ることになった」という話もあり、この会をきっかけに新たな交流が生まれたことが感じられました。



グループ内の発言を紹介する様子

参加者からは、「他県の取り組みを知ること、自分たちの活動を見直すきっかけになった」「共通の悩みが多いことが分かり励まされた」「自分の活動に自信を持つことができた」といった感想が聞かれ、有意義な時間となったことが伺えました。

来年度は広島県で開催予定ですが、次回にはさらに実践的な情報共有の場を目指したいと考えています。他県とのつながりを深めることで、畜産業に携わる女性の方たちがより主体的に活躍できる環境が整っていくことが期待されます。

〔県民局の現場から〕

「プロと創ってミルク」 ～真庭高校とのコラボ商品開発～

岡山県美作県民局畜産第二班 金谷 治真

1 はじめに

蒜山イキイキ酪酪協議会は、蒜山酪農農業協同組合（以下「蒜酪」）を中心に、観光・教育・行政など様々な関係団体とともに、蒜山ジャージー酪農の魅力発信と蒜山地域の活性化を目指して活動しています。

近年は、イベントや学校に赴いて、子牛とのふれあいや、ジャージー牛等身大の模型を用いての模擬搾乳体験などの理解醸成活動に取り組んできました。

ジャージー牛の魅力をより多くの人に伝えるため、令和6年度から新たな試みとして、地元の真庭高校生とコラボ商品を開発する「プロと創ってミルク」を始めました。



模擬搾乳体験の様子

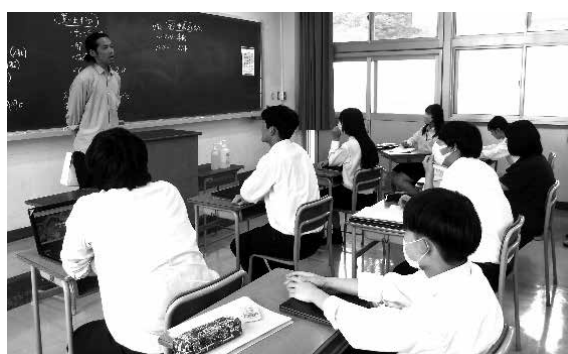
2 コラボ商品開発までの道のり

(1) 真庭高校について

真庭高校は、高齢者福祉施設での出前授業や地元小学生との収穫体験交流などの地域貢献活動を積極的に取り組んでいます。今回の商品開発には、「大好きなジャージー牛乳を使って商品を開発したい」「開発した商品を自分たちの手で販売したい」という意欲を持った10名の生徒たちが参加してくれました。

(2) 方針決定

4月から、蒜酪のパティシエである若山氏による出前授業、生徒自身による調べ学習、蒜酪運営の牧場見学を通して、蒜山ジャージー酪農への理解を深めました。



若山氏による講義の様子

次に、商品開発の方針を決めるプレゼンテーションを生徒たちにしてもらったところ、高校生らしい柔軟なアイデアに驚かされました。焼き菓子を開発したいとの意見が多く出たため、コクと香りが引き立つ蒜山ジャージーバターを使った焼き菓子を開発することになりました。



生徒によるプレゼンテーションの様子

(3) 商品決定

6月に、多数のアイデアの中からどの焼き菓子を作るか選定するため、生徒たちによるコンテストを行いました。候補となっ

ていたスノーボール、マカロン、チーズタルト、フィナンシェをグループに分かれて調理し、味や見た目・作業効率などを評価基準として、若山氏による審査を行いました。

審査の結果、粉砂糖に脱脂粉乳を混ぜてよりミルク感を引き立てたスノーボールと、バターをふんだんに使ったプレーン層に真庭市のご当地キャラクターである「まにぞう」をモチーフにした抹茶層を組み合わせたフィナンシェに決定しました。



スノーボール(ミルク) まにぞうフィナンシェ

(4) 試行錯誤・価格決定

7月から8月にかけて、若山氏の指導のもと、ジャージー牛乳の良さをより前面に表現することを意識して、材料の微調整を行うなどレシピの改良に取り組みました。また、作業効率を上げるために仕込み・手順・役割分担等を工夫し、実習を重ねることで、生徒たちの想いの詰まった商品が完成しました。



工房での実習の様子

商品完成後、学校での学びを活かして原価計算を行いました。「費用に対して利益を上げるためにどれくらいの価格が妥当なのか」「その価格でお客様に手に取ってもらえるだろうか」などを考慮し、生徒たち自身で価格を決めました。

3 イベントでの販売

コラボ商品販売のため、9月の「海山マルシェ～海の手・山の山 in 真庭～」と、10月の「ひるぜんジャージーランドわくわくまつり」に出店しました。

手作りのポップと看板を持って、少し緊張しながらもお客様に焼き菓子の説明をしました。元気で丁寧な接客が功を奏したのか、2回ともわずか2時間足らずで完売しました。

スノーボール、フィナンシェともに好評で、生徒たちはたくさんの方から嬉しいコメントをもらっていました。



海山マルシェにて、太田市長ご来店

4 おわりに

今回のコラボを振り返ってみて、生徒たちからは「開発から販売まで自分たちの手で最後までやり遂げたことに達成感を感じた」「真庭市だからこそ給食で希少なジャージー牛乳を飲めていたんだと、今になって考えると特別なことだったと思う」などの感想が聞かれました。牛乳離れが顕著になる高校生に牛乳の魅力を再認識してもらい、蒜山ジャージー酪農という特色ある地場産業に興味を持ってもらう良い機会になったと考えています。

これからも当協議会は地域の方々と共に、蒜山ジャージー酪農の魅力を発信する活動続け、蒜山地域の発展に貢献していきます。

過去最高の肉量「桃岡光27」号の新規選抜

岡山県農林水産総合センター 畜産研究所 育種改良研究グループ

1 はじめに

次世代を担う新たな基幹種雄牛として、「桃岡光27」号が選抜されたので、ご紹介します。

岡山県基幹種雄牛「桃岡光27」号

◎岡山県育種価 9位（第60回）



写真1 「桃岡光27」号

生年月日：令和元年10月3日

生産者：畜産研究所（美咲町）

登録番号：黒原6398

審査得点：85.4点

血統：

新岡光81	茂洋	茂勝	茂重波
		こざさ	糸晴波
	たかみず81	平茂勝	第20平茂
		たかみず8	北国7の8
ももこ27	美津照重	美津照	美津福
		いつみ	美津福
	ももこ	百合茂	平茂勝
		ともこ	金幸

「桃岡光27」号は、県の広域後代検定事業により（有）哲多和牛牧場で繋養されて

いる「ももこ27」号から採取した受精卵で畜産研究所において生産されました。

母系は曾祖母の「ともこ」号が鹿児島県から岡山県に導入された県外系で、「百合茂」号、「美津照重」号で「ももこ27」号は高い産肉能力を持ちます。産子の枝肉成績も肉量に優れ、特に脂肪交雑ではBMS No.10以上8頭の成績を出しています。

本県では、高能力な種雄牛を作出するため、県内の優秀な繁殖雌牛から生まれた雄子牛をゲノム検査し、能力を調査しています。「桃岡光27」号は、その結果から枝肉重量やロース芯面積、脂肪交雑の能力の高さに期待して、種雄牛の候補となりました。

2 検定成績

13頭（去勢4頭及び雌9頭）で現場後代検定を実施した結果、肉量・肉質ともに優れ、特に枝肉重量とロース芯面積は、本県の基幹種雄牛の中で過去最高となりました。（表1）第60回岡山県育種価（令和6年11月1日公表）では脂肪交雑、枝肉重量、ロース芯面積で上位3%以内に入る能力を持っています。

また、写真2は「桃岡光27」号雌産子のうちBMS No.12の枝肉ですが、本県種雄牛の雌産子の中でも特に枝肉重量が大きく、ロース芯面積については過去最高となり、オレイン酸が57.7%、MUFAが63.1%と脂肪の質についても高い値となりました。

表1 「桃岡光27」号の検定成績と育種価

	検定成績			第60回 育種価 ランク
	去勢	雌	総合	
肥育開始体重 (kg)	348.8	293.6	310.5	—
枝肉重量 (kg)	610.6	529.2	554.3	3%
ロース芯面積 (cm ²)	85.5	71.8	76.0	3%
バラの厚さ (cm)	8.1	7.9	8.0	C
皮下脂肪 (cm)	4.1	4.0	4.1	C
歩留基準値	74.6	73.8	74.0	A3
脂肪交雑 (BMSNo.)	10.3	9.0	9.4	3%
オレイン酸	51.9	55.2	54.2	C
MUFA	57.7	61.2	60.1	C

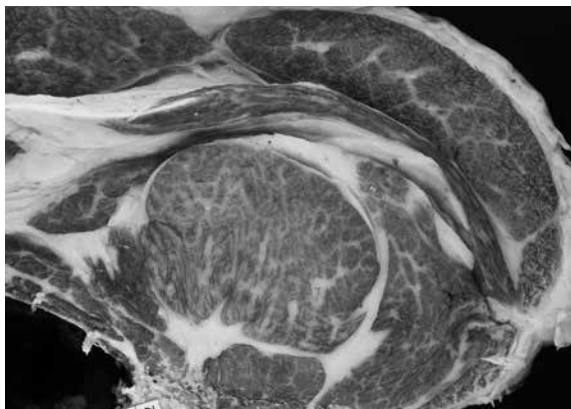


写真2 「桃岡光27」号産子の枝肉

写真2の枝肉データ

■母 の 父：藤沢茂	■母方祖父：美津福
■出荷月齢：26.8ヵ月	■性 別：雌
■枝肉重量：608.0kg	■ロース芯面積：94cm ²
■バラの厚さ：8.5cm	■皮下脂肪：3.1cm
■歩留基準値：77.0	■BMSNo.12
■オレイン酸：57.7%	■M U F A：63.1%

3 交配のポイント

交配については、検定成績からみると、雌牛の系統を問わずに好成績で、特に枝肉重量やロース芯面積、脂肪交雑の高さは安定しています。

産子の生時体重については、雄平均が38.4kg、雌平均が34.5kgとやや大きい傾向

です。(表2) また、生時体重が雌雄とも40kgを超える産子もいたことから、経産牛や大型の雌牛への交配を推奨します。

表2 産子の生時体重と在胎日数

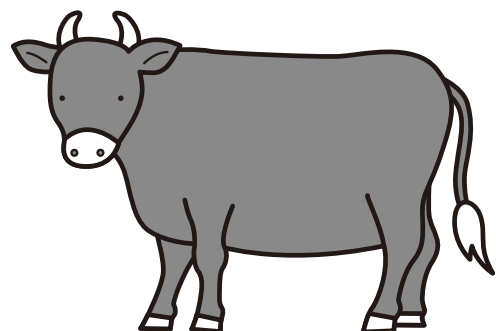
	頭数	生時体重 (kg)			在胎 日数
		平均	最小	最大	
雄	4	38.4	36.0	42.0	285.9
雌	9	34.5	26.5	42.0	

4 おわりに

「桃岡光27」号は高い産肉能力を持つことから、生産者の収益性向上が期待できる岡山県期待の種雄牛です。また、すでに県内でも多くの生産者の方々に利用されており、その産子の出生や枝肉成績が楽しみにされている種雄牛でもあります。

現在、供用中の基幹種雄牛は「桃岡光27」号が新たに選抜されたことで、「藤初花」号、「糸勝百合」号、「新花百合」号、「新岡光81」号を合わせた全5頭となりました。いずれも本県の和牛改良に資する優秀な種雄牛で積極的な活用をお願いいたします。

終わりにになりますが、種雄牛の生産者をはじめ、現場後代検定に協力して頂いた繁殖農家並びに肥育農家の方々、多くの関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。



知ろう、防ごう、ランピースキン病

岡山家畜保健衛生所 家畜保健衛生課

2024年11月、福岡県と熊本県で国内では初めてとなるランピースキン病（以下「LSD」）という牛の伝染病の発生が確認されました。

今回は、このLSDについて紹介します。

1 どんな病気？

LSDは、ランピースキン病ウイルスに感染することにより起こる牛と水牛の届出伝染病で、よくある発熱、鼻汁、泌乳量低下、リンパ節の腫大といった症状に加え、皮膚や粘膜に多数の結節（コブ）ができることが特徴です（写真1）。



写真1 コブや穴が残る皮膚病変
（出典：WOAHホームページ）

皮膚などの結節は経過とともに穴の開いた病変をつくることもあります（写真2・3）。

感染しても症状があらわれないものから重篤なものまで様々で、死亡率は1～5%とされています。泌乳量低下以外にも、流産や不妊などにより、生産性が低下し、農場の経営に及ぼす影響は大きくなります。

LSDには有効な治療法がなく、発生国では主に感染地域の牛の移動制限、症状のある牛のとう汰及びワクチン接種等の防疫対策がとられています。

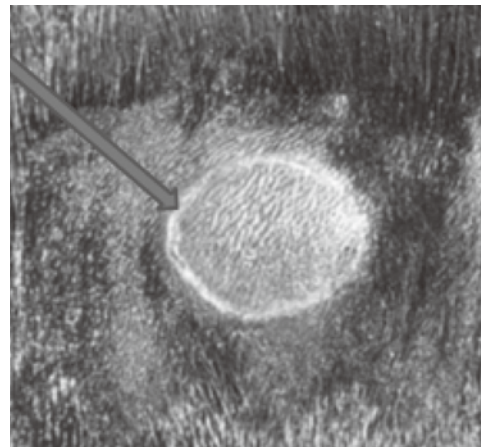


写真2 狭いリング状の出血



写真3 円錐形のような壊死
（写真2、3出典：Mulatu and Feyisa, J Vet Sci Technol 2018）

2 発生状況

アフリカで主に発生していた病気ですが、2010年代に中東の一部やトルコ、南ヨーロッパに広がりました。2019年以降アジア諸国で発生が拡大し、2023年には韓国の広い地域で発生しました（図1）。このため、2023年11月に韓国国内では飼育中の全ての牛にワクチン接種が行われています。

日本でも2024年11～12月にかけて福岡県19例と熊本県3例の合計22例（疑症牛※を含めて累計230頭）の発生が確認されました。

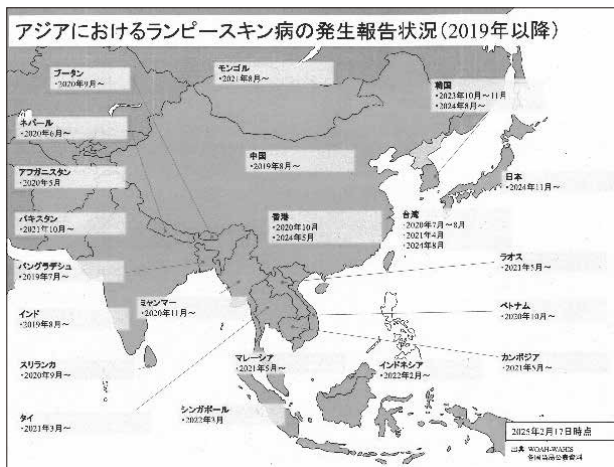


図1 アジアのLSD発生状況
(農林水産省HPより (2025年2月17日時点))

ただし、自主とう汰等のまん延防止対策をとることで、2025年1月23日時点現在で発症頭数は0頭になっています。

3 伝播

蚊、サシバエ、ヌカカ、マダニ等の吸血昆虫が主な経路と考えられています。国内への侵入経路も、LSDウイルスを保持した吸血昆虫が、周辺国から風や船舶等で運ばれたものと考えられています。国内では、車両等に吸血昆虫が迷い込み遠隔地まで運ばれ、感染が拡大した可能性も示唆されています。

また、感染牛の唾液や鼻汁、乳汁、精液等からもウイルスは検出されており、それらで汚染された水や飼料、飼養管理に使用する器具等が伝播経路となることもあります。

4 国内で発生した場合の対策

まん延防止のために次のような対策がとられています。

- 真症牛及び疑症牛※等の隔離、同居牛の移動及び出荷の自粛、自主淘汰
- 生乳、精液等の移動及び出荷の自粛
- 飼養管理に使用する器具等の洗浄、消毒（エタノール、次亜塩素酸ナトリウム、逆性石鹼などの一般的な消毒薬が有効）

- 殺虫剤散布等の吸血昆虫対策
- ワクチンの接種

※真症牛：LSDに感染していると判定された牛

疑症牛：真症牛の病性判定以降にLSDを疑う症状がみられた同居牛等

5 農場への侵入を防ぐために

農場への侵入防止のために次のような対策をお願いします。

- 毎日の健康観察、牛の導入、出荷、移動時に皮膚等の病変に気を付けて観察
- 殺虫剤の散布や粘着シート、防虫ネット等を活用した害虫の駆除、防除
- 衛生管理区域内の整理整頓、飼養管理に使用する器具等の洗浄、消毒（1頭ごとの交換や洗浄、消毒）
- 農場内へ出入りする全ての車両は洗浄、消毒、殺虫の徹底
- 農場毎に衣服や長靴交換を徹底

春先以降、吸血昆虫の活動が活発化するため、発生は予測できません。そのため、できるだけ対策（特に吸血昆虫対策）を徹底することが重要といえます。

早期発見が重要なため疑わしい症状がみられた場合は、速やかに家畜保健衛生所へ連絡をお願いします。

〔家畜衛生情報〕

牛伝染性リンパ腫の対策に取り組みましょう！

一般社団法人岡山県畜産協会 家畜衛生部

○牛伝染性リンパ腫って？

牛伝染性リンパ腫は、牛伝染性リンパ腫ウイルス（B L V）感染により、血液中に異型リンパ球が異常増殖し、リンパ腫を発症する病気です。このウイルスに感染した牛は、血液や乳汁等を介して、他の牛への感染源になります。

感染牛の多くは無症状ですが、数%は数年の潜伏期間後に発症し、生産性が著しく低下、数週間から数か月で死亡します。また、出荷後にと畜場で診断された場合は、全部廃棄になるため、大きな経済的損失となります。

県内での発生は、令和6年度は12戸、64頭（図1）で、1戸あたりの発生頭数が約5.3頭となっており、効果的な対策をとっていないと考えられる農場に被害が集中していると思われます。

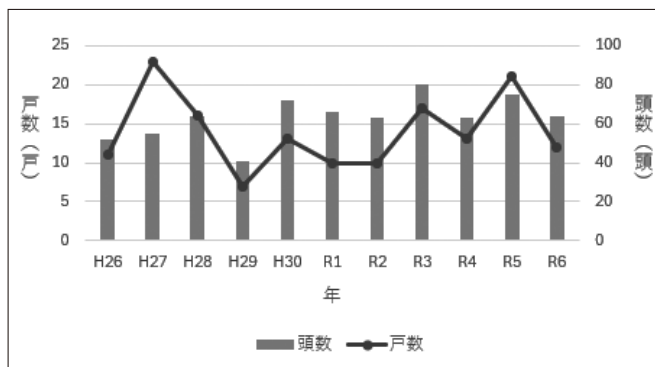


図1 県内の牛伝染性リンパ腫発生状況
農林水産省HP 監視伝染病発年報より

○どのようにして感染するの？

以下のとおり、牛群内で感染するルートと母牛から子牛へ感染するルートがあります。

【牛群内で牛から牛へ】

- ・吸血昆虫（アブやサシバエ）
- ・感染牛の血液が付着した物（注射針、直検手袋、器具）
- ・感染牛の分娩後に分娩房をそのまま利用

【母牛から子牛へ】

- ・B L V感染牛の乳
- ・産道

○どのように対策したらいいの？

対策については、農林水産省から牛伝染性リンパ腫（牛白血病）に関する衛生対策ガイドライン（以下、ガイドライン）が示されており、牛の飼養者、獣医師、家畜人工授精師、関係機関等が一体となって取り組むこととされています。

牛伝染性リンパ腫のまん延防止対策は、まずは検査でB L Vの感染状況を把握することから始まります。そして、農場内での感染拡大を防ぐとともに、血中ウイルス遺伝子量を考慮したうえで、経営状況に配慮しつつ更新の優先度をつけて、感染牛をとう汰することも有効です。

○家畜生産農場衛生対策事業（次頁：表1）を活用し、対策に取り組みましょう！

岡山県畜産協会では、「家畜生産農場衛生対策事業」により、ガイドラインに基づいて飼養者が実施する牛伝染性リンパ腫対策の経費を補助しています。補助の内容は、以下の3つです。

- ① 検査費用や陰性証明書の交付料に対する補助
- ② 共同放牧場に対する検査費用や吸血昆虫の忌避駆除費用の補助
- ③ ウイルスを伝播させる可能性が高い牛（以下、高リスク牛とする）のとう汰補助

繰り返しになりますが、対策は、まず農場内の感染状況の把握から始まります。なお、検査の補助は、過去に抗体陽性となった牛の抗体検査は対象外ですので、家畜保健衛生所の指導を受けながら取り組んでください。

家畜生産農場衛生対策事業の概要の詳細は表1をご覧ください。

表1 家畜生産農場衛生対策事業概要

メニュー 要件	・検査費 ・証明書の交付料	・共同放牧場等に係る検査費 ・吸血昆虫の忌避駆除費	・高リスク牛のとう汰費
対象となる農場	・ガイドラインに基づく対策に取り組んでいく農場	・共同放牧場 ・ガイドラインに基づく対策に取り組んでいく農場	・6か月齢以上の全頭検査を3年以上行い、感染牛を分離飼育している農場 下記※1①～⑤のうち、3つ以上実践していること
助成する牛又は内容	・過去の検査時に抗体陰性であった牛 ・未検査牛 ・発症牛への抗体検査及び抗原検査並びに陰性証明書の交付	・共同放牧場への入場前に抗体陰性だった牛及び未検査牛に実施する抗体検査及び抗原検査 ・感染牛がいる農場における防虫ネット等の資材費(※2) ・感染牛に対するアブ・サシバエの忌避・駆除剤費	・乳用又は肉用の繁殖牛 ◎血液ウイルス遺伝子量等を考慮したうえで、高リスク牛を優先して淘汰すること(※3)
補助率	1/2以内	1/2以内 忌避駆除費は、1施設当たり88千円が上限	評価額の2/3から利用額を控除した額以内(※4)
R5実績	抗体検査延べ 1,404 頭 抗原検査延べ 378 頭	抗原検査 延べ 101 頭	0 頭

※1 ①人為的な伝播を防止するための対策 ②吸血昆虫対策 ③初乳の加温、凍結又は初乳製剤の使用 ④早期母子分離飼育 ⑤導入牛の隔離・検査

※2 防虫ネットの網目は、アブ対策では1cm以下、サシバエ対策では2mm以下。

※3 牛のウイルス遺伝子量が少ない低リスクの牛が他の理由によって先に廃用になっても、その時点でリスクが高い牛の順に淘汰した牛が補助の対象となります。

※4 評価額には、上限があります。



図2 防虫ネットの設置例
中国四国酪農大学校

牛伝染性リンパ腫対策の詳細については最寄りの家畜保健衛生所へ、家畜生産農場衛生対策事業については岡山県畜産協会へお尋ねください。

岡山家畜保健衛生所 TEL086-724-3880 井笠家畜保健衛生所 TEL0866-84-8221
高梁家畜保健衛生所 TEL0866-22-2077 津山家畜保健衛生所 TEL0868-29-0040

一般社団法人 岡山県畜産協会 家畜衛生部 TEL086-232-8442

令和7年度緊急対策

酪肉支援資金

(酪農・肉用牛担い手緊急支援資金)

3年分の償還額を長期・低利で借換えることによる償還負担の軽減と、経営環境の変化への対応をサポートする制度資金です

3年分の借換で
キャッシュフローを
確保

酪肉支援資金はこんな資金です

ポイント

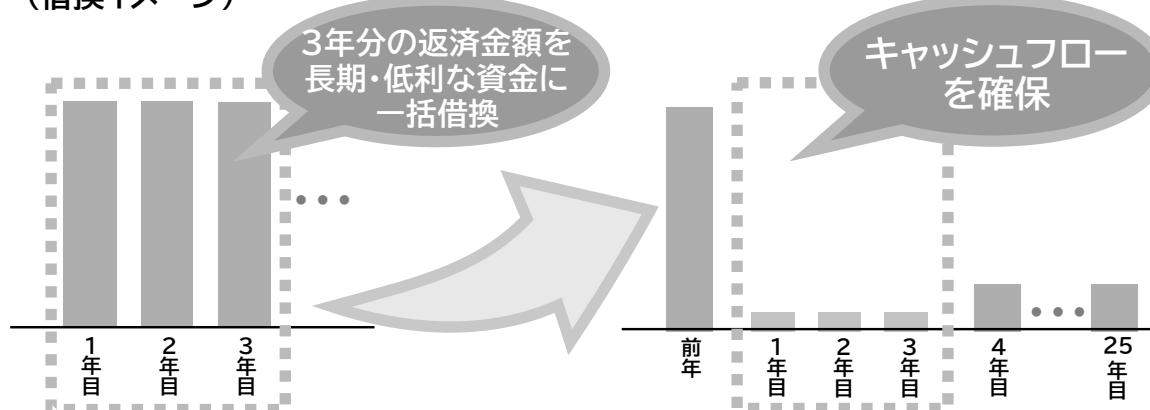
3年分の返済金額を借換えることで、負担軽減効果を高めます

酪農・肉用牛経営における

3年分の返済金額を限度額として、
長期・低利で借換を行うことができる
制度資金です。

対 象	酪農経営・肉用牛経営
限 度 額	3年分の返済金額
償還期限	25年以内(うち据置期間5年以内)
貸付金利	1.50%程度(貸付時の金利を適用)
貸付予定日	令和7年5月末、8月末、11月末、令和8年2月末

(借換イメージ)



経営環境の変化への対応をサポートします

持続可能な経営に向けた経営構造の見直しに対し、畜産協会、金融機関、JA営農指導員、普及指導員、家畜保健衛生所、農業共済獣医師等がサポートします。



まずは、地域の農協等金融機関、普及指導員、畜産協会、自治体にご相談を!!

alic 農畜産機構
株式会社 農畜産機構

中央畜産会
CENTRAL LIVESTOCK
INDUSTRY ASSOCIATION



〔センムのヒトリゴト〕

賛 否 両 論

一般社団法人岡山県畜産協会 中塚 陽二郎

街角に設置され誰でも自由に演奏することができるストリートピアノは、音楽を通じて街に賑わいと潤いを与える。優れた演奏には、自然と拍手と笑顔が溢れてくる。

一方、公共の場であるが故の問題も起きている。自由に演奏できるといっても、耳障りな騒音として不快に感じる人もいる。人によって感じ方がまちまちなのである。

日本人社会は寛容で、往々にして問題が起きたときの対応が甘い。今の時代、一定のルールは明確に定め、毅然と対応すべきであろう。とはいえ、ストリートピアノは聴きたくなければその場から立ち去れば良いのに、最近では、気に入らない他人の行動を非難し、世間に対し賛同を求める危うさも見え隠れする。そういえば、「保育園や幼稚園の園児がうるさい」「公園の子供の声がやかましい」との苦情も問題となったことがある。社会生活を営む以上、自分と同等の権利を他人にも認める余裕がほしいものだ。

また、外国人に対する二重価格にみる賛否両論がある。二重価格は差別的だとの意見もあるが、私自身はどちらかと言えば肯定派である。外国に行けば、自国民や永住権取得者など居住者と旅行者は明確に扱いが違う。国民だけに認められる権利は厳重に保護されている。上乗せが耳障りなら、料金を一律にして、国民や住民などを対象に一部割引けばよい。

オーバーツーリズムの弊害もある。出張で宿泊施設を利用することが多いが、特に首都圏・関西圏のホテルの値上げは容赦な

い。国民生活や経済活動に支障をきたしているのである。

日本の社会制度は元々外国人の利用を想定していない。こういうことを言うと多くの反論が寄せられると思うが、外国人が日本国民のための高額療養費制度にただ乗り同然で利用できる現状も、政治の怠慢と言われてもしかたがない。在留許可・入国管理も甘いし、運転免許も簡単にホテルの住所で取得できると聞いている。正直者が馬鹿をみるような制度とならないよう一定のルールを定め、制度の悪用を防ぐことが重要だ。悲しいかな性善説に基づく対応では、度を越した権利意識や目先の損得勘定に歯止めが利かない。事なかれ主義が蔓延し、苦言を呈するより物分かりの良いいい子でいようとすることも、問題放置を助長していると言えよう。

セクハラの問題も後を絶たない。ハラスメント加害者が100%悪いことに全く異論はない。しかし、残念ながら絶対に世の中からなくなることはない。日本人は、自分の身は自分で守る覚悟が希薄なのである。外国なら小さい時から厳しく教えられる。日本では夜間でも一人で歩けるが、外国では学校の登下校でさえ車での送迎が一般的だ。子供や女性が一人で歩こうものなら行方不明の未解決事件になりかねないのである。

曖昧な日本、優柔不断な日本では、今後の国際社会では、残念ながら通用しなくなるだろう。

賛否両論、お待ちしております。

岡山県畜産関係者名簿（令和7年4月1日現在）

部 署	職 名	氏 名	部 署	職 名	氏 名
農林水産部畜産課 FAX 086-224-2155 生産振興班 TEL 086-226-7429	課 長 副課長 総括参事（生産振興班長） 副参事 副参事 主 任 技 師 主 事 総括参事（衛生環境班長） 副参事 副参事 副参事 主 幹 主 幹 技 師 総括参事（経営流通班長） 副参事 主 幹 主 幹 主 幹 技 師 主 事	森分 哲彦 末尾 正樹 岡田 英樹 内田 啓一 朝倉 麻由子 羽柴 一久 大坂 文美恵 家守 貴也 田原 鈴子 山内 章江 佐野 通 出石 節子 中山 貴義 金谷 真澄 堀川 寛通 塩田 鉄朗 松本 実 福田 新 尾崎 尚樹 松本 吉生 江草 亮太 高田 夏妃	美作県民局 農畜産物生産課 TEL 0868-23-1310 FAX 0868-24-4962 TEL 0867-44-7564 FAX 0867-44-4754 岡山家畜保健衛生所 家畜保健衛生課 TEL 086-724-3880 FAX 086-724-3884 家畜病性鑑定課 TEL 086-724-3855 FAX 086-724-3856 井笠家畜保健衛生所 TEL 0866-84-8221 FAX 0866-84-8233 高梁家畜保健衛生所 TEL 0866-22-2077 FAX 0866-22-7882	農畜産物生産課長 総括副参事（畜産第一班長） 副参事 主 事 技 師 技 師 総括副参事（畜産第二班長） 技 師 技 師 主 事 所 長 課 長 副参事 副参事 副参事 副参事 主 任 主 任 主 任 主 任 技 師 技 師 主 事 課 長 専門研究員 専門研究員 専門研究員 研究員 技 師 所 長 次 長 副参事 副参事 副参事 副参事 副参事 主 幹 主 任 主 任 技 師 主 事 技 師 技 師 所 長 次 長 副参事 副参事 主 幹 主 任 主 任 技 師 主 事 技 師 技 師	定森 淑子 田辺 裕司 大谷 晴美 赤木 奈緒 郡司 拓実 青木 麻奈 馬場 彩 藤原 希 渡辺 早瑛 君塚 大輔 岡田 ひろみ 金岡 孝和 佐藤 静子 平井 伸明 澤井 紀子 荒金 知宏 宇高 成美 二部野 紗世 菱川 創太 牧野 俊英 西本 光佑 村岡 咲季 市本 潤 別所 理恵 橋田 明彦 難波 かおり 梯 洋介 山口 葵 小花 綾乃 西川 真琴 横内 淳一郎 中村 浩三 萱原 佳美 黒岩 力也 いざさ 啓介 福島 成紀 錦織 拓美 近藤 恵 松長 清美 長尾 薫乃 和田 理来 国森 悠人 守内 愛実 池田 克美 高見 剛 西 淳子 岡本 雄太 荒木 由季子 兒子 友美 西川 早百合 入江 結唯 末好 伊織
衛生環境班 TEL 086-226-7431					
経営流通班 TEL 086-226-7428					
(中国四国酪農学校派遣) TEL 0867-66-3651 FAX 0867-66-3652 総務課 教務課	副校長 課 長（副校長兼務） 主 任	串田 晴彦 三宅 正純			
備前県民局 農畜産物生産課 TEL 086-233-9828 FAX 086-232-5532	農畜産物生産課長 総括副参事（畜産班長） 副参事 副参事 主 幹 主 任 主 任 主 事	牧野 賢 植田 幹隆 前田 勝彦 宮本 康子 高取 和弘 網島 優子 菅 美穂 太田 真理			
備中県民局 農畜産物生産課 TEL 086-434-7033 FAX 086-425-4921	農畜産物生産課長 参 事 総括副参事（畜産第一班長） 副参事 主 幹 主 幹 主 任 技 師 技 師	仁科 寿 清水 淳也 三木 隆司 森山 靖成 立川 優子 吉田 由紀 田中 康裕 横尾 夏未 安藤 美羽			
TEL 0867-72-9166 FAX 0867-72-9146	総括副参事（畜産第二班長） 副参事 技 師	高取 健治 津寺 春良 葛原 大希			

部 署	職 名	氏 名	部 署	職 名	氏 名
津山家畜保健衛生所 TEL 0868-29-0040 FAX 0868-29-3140 家畜衛生第一課	所 長	平田 祐介	改良技術研究室 TEL 0867-27-3221 (育種改良研究 G)	室 長（特別研究員）	片岡 博行
	次 長	秦 守男		グループ長（専門研究員）	小田 亘
	家畜衛生第一課長	片岡 まどか		技 師	森清 邦彦
	副参事	松馬 定子		技 師	川本 梨絵
	副参事	黒岩 恵		技 師	鮫島 凱
	副参事	笹尾 浩史		副参事	高山 勲
	主 任	蛇島 武久		副参事	大平 嘉秀
	主 任	杉本 裕亮		副参事	岡本 元正
	主 任	山崎 悠高		副参事	村田 和弘
	主 任	三宅 歩		副参事	横山 明彦
家畜衛生第二課	主 任	岡部 詩季	(和牛飼養研究 G)	主 幹	福島 敏道
	主 任	三柳 和志		グループ長（専門研究員）	小林 宙
	主 任	村上 美幸		技 師	宮浦 眞弘
	技 師	柴田 大輔		技 師	金田 実沙紀
	家畜衛生第二課長	(次長兼務)			
	副参事	中山 裕貴	飼養技術研究室 TEL 0867-27-3349 (繁殖衛生研究 G)	室 長（特別企画専門員）	滝本 英二
	副参事	田中 静香		グループ長（専門研究員）	坂部 吉彦
	副参事	横内 百合香		専門研究員	佐々木 真也
	主 任	森 眞理子		研究員	光宗 仁美
	主 任	岡田 慧	(酪農研究 G)	グループ長（研究員）	西村 祐枝
農林水産総合センター 畜産研究所 TEL 0867-27-3321 FAX 0867-27-3333	主 任	岩本 侑希子		技 師	佐々野 貴経
	主 任	武縄 勝浩		技 師	富谷 勇樹
	技 師	和仁 佳史		技 師	高田 碧
	所 長	藤原 努	県営食肉地方卸売市場 TEL 086-272-2138 FAX 086-273-7729	場 長	守屋 吉英
	副所長	行森 美枝		次 長	坂本 誠
			総務課	課 長（次長兼務）	
	副参事	宮阪 育代		副参事	中村 克行
	主 任	黒澤 康政		副参事	細木 健吉
経営技術研究室 TEL 0867-27-3322 (企画開発 G)	室 長（特別企画専門員）	河原 貴裕	業務課	課 長	田中 健嗣
	グループ長（専門研究員）	脇本 進行		主 任	谷口 翔
	研究員	高取 真穂		主 任	西江 拓海
	技 師	宮野 友里		主 任	難波 浩
	主 事	能上 泰明		主 任	妹尾 直樹
	主 事	吉永 恒平			
	技 師	安藤 健治			
	グループ長（専門研究員）	川口 泰治			
	研究員	白石 誠			
	技 師	米澤 瑠乃			
(飼料環境研究 G)	技 師	矢原 大雅			

家 畜 部	部 長	江 草 佳 彦
家 畜 課 TEL 086-230-5575 FAX 086-230-3202	課 長	谷 口 雅 人
	主 事	小 橋 陸 哉
	主 事	鴨 井 敏 則
	臨 時	朝 倉 昇 子
生 産 獣 医 療 支 援 セ ン タ ー TEL 0867-22-1500 FAX 0867-22-1194	診 療 所 長	谷 拓 海
	次 長	大 屋 卓 志
	主 任	八 田 愛 弥
	技 師	田 中 陽 生
	嘱 託	山 形 真 由
備 中 家 畜 診 療 所 TEL 0866-84-1400 FAX 0866-84-1401	診 療 所 長	水 戸 康 明
	主 査	篠 原 健 志
	主 任	宇 野 進
	臨 時	川 上 智 美
備 中 家 畜 診 療 所 備 北 出 張 所 TEL 0866-22-2211 FAX 0866-22-0358	出 張 所 長	根 木 慶 彦
	技 師	三 牧 薫
	技 師	新 里 実 子
	技 師	安 藤 明日香
	技 師	畦 崎 正 典
	臨 時	中 笹 良 恵
美 作 家 畜 診 療 所 TEL 0868-54-5081 FAX 0868-54-2271	診 療 所 長	椿 修
	主 任	神 田 遥 子
	技 師	守 屋 ひかり
	技 師	宮 本 翔 也
	技 師	安 藤 湧 希
	技 師	赤 松 優 美
	技 師	齋 喜 宣 孝
	技 師	豊 島 麻美子
	技 師	村 井 美 音
	技 師	影 山 毅
	臨 時	小 林 直 子
	臨 時	福 田 佳 子
美 作 家 畜 診 療 所 蒜 山 出 張 所 TEL 0867-66-2517 FAX 0867-66-4626	出張所長（兼）	椿 修
	主 査	八 木 梓
	技 師	船 越 史 佳
	技 師	犬 間 一 郎
	技 師	西 山 篤
	技 師	大 谷 香 里
	臨 時	宮 本 美佐枝

全農岡山県本部 畜産部 組織図

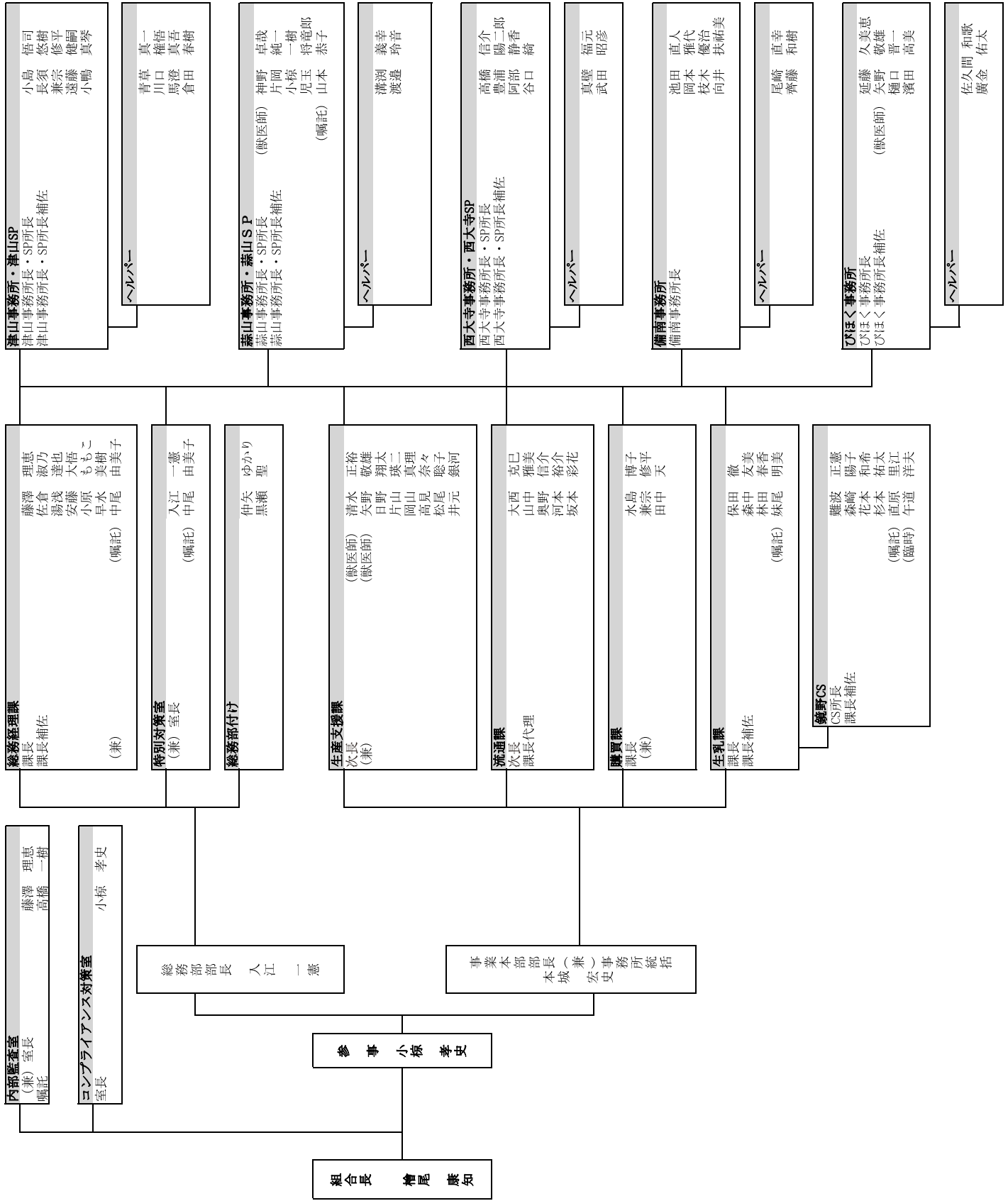


全農岡山県本部 畜産部 人事配置

令和7年4月1日現在

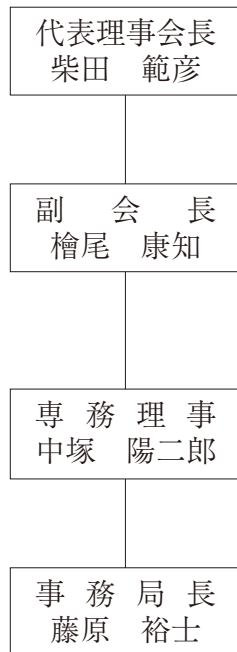
部・課	職 名	氏 名	備 考
畜産部	部 長	山 本 高 宏	
	次 長	藤 原 哲	
	次 長	堀 田 文 博	
	次 長	暮地岩 有 斗	
	次 長	西 野 芳 仁	
畜産販売課 (086-296-5033) (086-280-5024)	課 長	西 山 明 伸	
	専任課長	藤 原 潤 太	
		阿 食 赳 正	
		成 松 真奈美	
		妹 尾 侑 斗	
		柿 本 真 奈	
		岡 崎 友 哉	
		松 本 英 梨	
		小 林 和 喜	
		難 波 智 明	兼 務
		原 千 秋	
		太 田 裕 之	
岡山 GP センター (086-293-8688)	センター長	藤 原 潤 太	兼 務
ミートセンター (086-296-5088)	センター長	藤 原 哲	兼 務
		木 下 貴 博	
		中 村 倫 政	兼 務
		川 上 圭 太	
		井 上 清 志	
		真 壁 正 和	
はなやか精肉店 (086-222-2560)	店 長	堀 田 文 博	兼 務
		中 村 倫 政	
		岸 田 健 介	
畜産生産課 (086-280-5608)	課 長	西 野 芳 仁	兼 務
		小 野 皆 人	
		清 野 真 之	
		中 本 航 輝	
		小 椋 一 広	
		植 田 淑 江	
		難 波 智 明	
		道 繁 要	
		金 政 陽 子	
総合家畜市場 (0867-42-5333)	場 長	中 村 健	
		小 野 皆 人	兼 務
		小 椋 一 広	兼 務
		植 田 淑 江	兼 務

おかやま酪農業協同組合機構図：令和7年4月1日付



令和7年度 一般社団法人岡山県畜産協会組織図

(令和7年4月1日)



企画管理部 (TEL 086-221-0511) (FAX 086-234-6031)
部 長 藤原 裕士 (兼務) 審 議 役 小山 雅子 副調査役 井戸本 由美
経営支援部
部 長 築山 伴文 経営対策班 (TEL 086-222-8575) (FAX 086-234-6031) 班 長 井上 睦恵 審 議 役 池見 亮 副調査役 高尾 奈々 参 与 砂原 一彦 価格対策班 (TEL 086-234-5981) (FAX 086-223-4755) 班 長 築山 伴文 (兼務) 嘱託職員 和田 直美
家畜衛生部 (TEL 086-232-8442) (FAX 086-234-6031)
副調査役 石川 晶子 技 師 武元 のの香 参 与 河原 宏一 参 与 小田 頼政 参 与 井戸 昭一
生乳検査センター (TEL 0868-54-7366) (FAX 0868-54-7368)
所 長 目瀬 勤 副調査役 村上 恭子 嘱託職員 本田 正司 嘱託職員 藤堂 ゆみ恵 嘱託職員 池田 祥子 臨時職員 木原 恵美

岡山県畜産関係各種協議会名簿一覧

(令和7年4月1日現在)

名 称	会 長	事 務 局
岡山県家畜人工授精師協会	狩 谷 和 宏	岡山県畜産課
岡山県酪農乳業協会	檜 尾 康 知	おかやま酪農業協同組合
岡山県産牛肉銘柄推進協議会	藤 原 雅 人	全農岡山県本部畜産部
岡山県産豚肉消費促進協議会	藤 原 雅 人	全農岡山県本部畜産部
岡山県養鶏協会	安 原 健 二	烏城養鶏農業協同組合
岡山県ふ卵協会	山 上 祐 一 郎	烏城養鶏農業協同組合
岡山県装削蹄師会	平 井 計 行	岡山県装削蹄師会事務局
岡山県養蜂組合連合会	鈴 木 康 正	鈴木養蜂場
岡山和牛子牛資質向上対策協議会	山 本 高 宏	岡山県畜産協会
岡山県馬事畜産振興協議会	柴 田 範 彦	岡山県畜産協会
岡山県養豚振興協会	梶 田 謙 二	岡山県畜産協会
岡山県コントラクター協議会	石 原 聖 康	岡山県畜産協会

高知競馬開催案内(2025)

地方競馬の収益金の一部は国内の畜産振興に役立てられています。

5月						6月											
開催日			備 考			開催日			備 考			開催日			備 考		
1	木			17	土	○ ナイター	1	日	○ ナイター			17	火				
2	金			18	日	○ ナイター	2	月				18	水				
3	土	○ ナイター		19	月		3	火				19	木				
4	日	○ ナイター		20	火		4	水				20	金				
5	月			21	水		5	木				21	土	○ ナイター			
6	火			22	木		6	金				22	日	○ ナイター			
7	水			23	金		7	土	○ ナイター			23	月				
8	木			24	土	○ ナイター	8	日	○ ナイター			24	火				
9	金			25	日	○ ナイター	9	月				25	水				
10	土	○ ナイター		26	月		10	火				26	木				
11	日	○ ナイター		27	火		11	水				27	金				
12	月			28	水		12	木				28	土	○ ナイター			
13	火			29	木		13	金				29	日	○ ナイター			
14	水			30	金		14	土	○ ナイター			30	月				
15	木			31	土	○ ナイター	15	日	○ ナイター								
16	金			ナイター(14:45～20:50)			16	月				ナイター(14:45～20:50)					

ホ ッ ト ニ ュ ー ス

令和7年3月16日(日)、高知競馬場にて開催された地方競馬ミルクウィーク2025「中国地域の酪農応援特別」に参加しました。この催しは、地方競馬を通じて畜産への貢献や乳製品のPRを目的としたもので、中国5県の畜産協会が協力し、各県の乳製品を来場者に配布しました。本県からは蒜山ジャージーA2牛乳を提供し、多くの方々にその魅力をPRしました。



あとがき

熊野古道・小辺路。高野山から熊野本宮まで全長70km、三つの峠を越える道。古の修験者や商人たちが、己の祈りや生業のために歩いた道を、私は辿った。霧に包まれた幻想的な杉の古道、まるで桃源郷のような果無集落。穏やかな風景に心癒やされながらも、そこはやはり修行の道であった。無事自宅に帰り、何の変哲もない家庭料理を肴に、いつもの安酒を傾ける。その時、ふと思う。この何気ないありふれた日常こそが、いちばんの幸せなのだ。熊野古道は、そんな大切なことを、そっと教えてくれる旅だった。(H.F)

岡山畜産便り 4月号(春季号)

第76巻 第3号(通巻716号)
令和7年4月25日発行
定価250円(消費税・送料含)

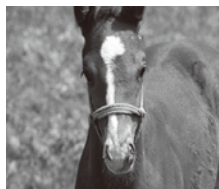
発行人 柴田範彦 編集人 藤原裕士

発行所 一般社団法人 岡山県畜産協会

〒700-0826 岡山市北区磨屋町9-18 岡山県農業会館5階

TEL 086-221-0511 FAX 086-234-6031

印刷所 ノーイン株式会社



メディパルグループ



動物の健康は 人の健康につながる

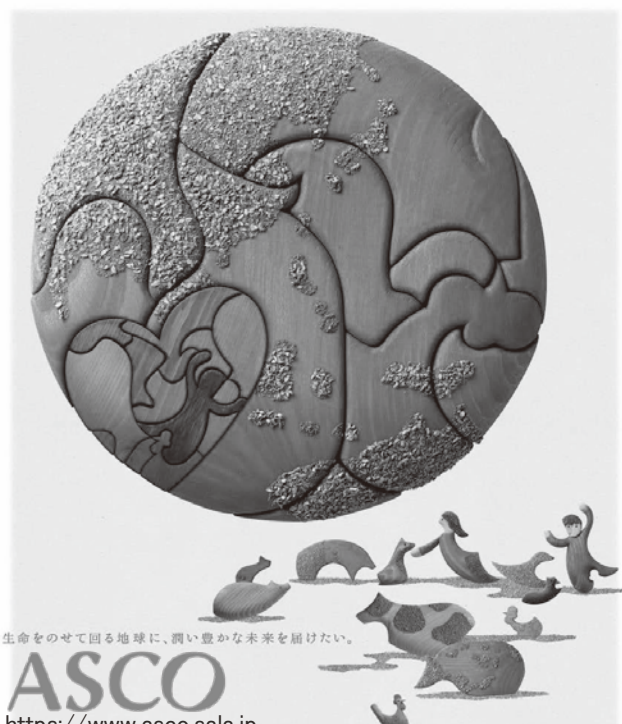
- 動物用医薬品販売の全国ネットワークを駆使し、あらゆる動物の健康維持に貢献します。
- 安全な畜水産物の生産をサポートし、獣医療の発展と食の安全・安心に貢献します。

MPアグロ株式会社

本社 〒061-1274 北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13
TEL 011(376)3860 FAX 011(376)2600

岡山支店 〒709-2122 岡山市北区御津吉尾1-1 TEL 086-724-4880 FAX 086-724-4889
AHSC西日本 〒702-8032 岡山市南区福富中2丁目6-18 TEL 086-902-2200 FAX 086-264-2500
御津物流センター 〒709-2122 岡山市北区御津吉尾1-1 TEL 086-724-4816 FAX 086-724-4882
東京本部・札幌・旭川・函館・帯広・北見・釧路・青森・秋田・盛岡・山形・仙台・東京・北関東
大阪第一・大阪第二・兵庫・広島・山口・鳥取・島根・高松・徳島・松山・宇和島
福岡オフィス・福岡第一・福岡第二・熊本・宮崎・鹿児島・鹿屋
札幌物流センター・帯広物流センター・盛岡物流センター・関東物流センター

人と動物の健やかな共生環境づくりに貢献します



生命をのせて回る地球に、潤い豊かな未来を届けたい。

ASCO
<https://www.asco.sala.jp>

本社

〒441-8021
愛知県豊橋市白河町100番地
TEL 0532-34-3821 FAX 0532-33-3611

東京本社

〒103-0027
東京都中央区日本橋1丁目16番地3号
日本橋木村ビル7階
TEL 03-6225-5790 FAX 03-6225-5791

営業所

- ・北海道支店
札幌
- ・東日本支店
前橋、松本、旭、茨城、栃木、東京
大宮、宮城、福島
- ・中日本支店
豊橋、安城、浜松、沼津、岐阜、名古屋
- ・西日本支店
広島、山口、米子、岡山、大阪、京都